

平成15年度事業計画

創立50周年事業を無事終えた日本油化学会は新たな半世紀へと歩みを進めはじめた。その第一歩となる平成15年度の事業計画を充実させて進めていきたい。

学会活動の中でも重要なものである専門部会のあり方、活動方針について見直しがなされ、新しく5専門部会に再編された。今後の活動に期待したい。会誌オレオサイエンス、論文誌JOSは会員への情報伝達、学会から外への発信手段として学会活動の柱の一つである。内容の充実は勿論、電子ジャーナル化をさらに進め、拡げていく。国際化も引き続き力を入れていきたい。2004年開催のAOCS/JOCS ジョイントシンポジウムの準備も本格化する。ILSI Japan（日本国際生命科学協会）とのジョイントシンポジウム、ISFも予定されている。昨年は中国、インドとの交流があったが、本年もさらにアジアの関連団体と交流を進めていきたい。

より魅力的な新しい活動を多く進め、会員も増強して財務基盤の健全化を実現して行きたい。

1 会務

1.1 総会

第49回通常総会を平成15年3月31日、油脂工業会館会議室で開催する。平成14年度事業報告および収支報告、平成15年度事業計画案、収支予算案および名誉会員推戴等を審議し、平成15年度役員を選任等を行う。

通常総会終了後、総会報告会、名誉会員推戴式および表彰式を開催し、日本油化学会名誉会員推戴、日本油化学会功績賞および平成14年度学会賞等選考結果等について報告し、表彰する。

1.2 理事会

平成15年度理事会の開催予定数は、5回。平成15年度会長、副会長、常務理事の選任、運営委員長、各業務委員長および支部長等の選任、諸事業計画の立案・推進、平成15年度一般会計・特別会計決算案および平成16年度同予算案の作成等、重要案件について審議し、決定する。

1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定数は、6回。運営会議は運営委員会が開催されない偶数月に少数回開催する。運営委員会および運営会議は、理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は、日本油化学会会長の推薦候補者を選考するプロセスを会員に分かりやすいものにするに取組んでいる。財政基盤の健全化への取組みは引き続き重要で、会員増強委員会による取組みに力を入れていきたい。企画・部会統括委員会では、専門部会活動の推進に加えて本部事業の見直しを検討したい。国際交流の活動は、JS2004の開催準備と年会に英語を共通語とするセッションを設ける試みが中心になる。年会では、外国人講演者を招き、東南アジアをはじめ海外からの参加者を奨励する。平成15年より会誌「JOS」の電子ジャーナル化がなされたが、外国からの投稿を奨励し、投稿が増えることを期待される。編集委員会は分冊された会誌がそれぞれのシステムを確立するとともに、優秀論文の表彰制度について深耕する。規格試験法委員会は、基準油脂分析試験法の改訂版の刊行を予定し、さらに、重合物分析法、英文試験法の作成を検討する。

2 事業計画案

2.1 本部事業

第4回フレッシュマンセミナーは例年どおり工学院大学を会場として5月に「油脂と脂質」、6月に「界面科学と界面活性剤」を行う。また、第3回基準油脂分析試験法セミナーと第2回界面科学アドバンスセミナーを引き続いて行うと共に、新たに第1回界面活性剤評価・試験法セミナーを開催し、4セミナー（5企画）はいずれも基盤事業として定例化をはかる。

2.2 支部活動

3支部による講演会、セミナー等は例年に倣って開催するが、支部活動の範囲を拡げるため、「油化学と健康」を共通のテーマとする油脂工業会館共催地区講演会を、郡山市（関東支部）、名古屋市（東海支部）、佐賀市および香川県（関西支部）においてそれぞれ開催する。

2.3 専門部会活動

これまでの8部会を刷新して、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会の5部会の新体制でスタートする。新たなコンセプト、活動方針の下に部会員を募集する。各部会は専門性の追及および研究者の交流に重点をおいた活動を展開する。専門部会主催のシンポジウム・セミナーの一層の充実と定着化をはかる。

2.4 会誌

学術論文を中心とする「Journal of Oleo Science」と、学術情報を中心とする「オレオサイエンス」を各々12号発行する。会員にとって一層魅力ある会誌にするため、前者は国際的評価が得られるように、また後者は正確で有用な学術情報が速やかに会員に届けられ、会員相互の連帯が得られるような内容の充実を努める。また、会誌の電子ジャーナル化を実際に開始する。

2.5 日本油化学会年会

平成15年度第42回年会は、高木克彦実行委員長（名古屋大学）のもとに、名古屋国際会議場において、9月18日（木）-20日（土）に開催する。基調講演、各種受賞講演、昨年度から設けられた部会主催のシンポジウム・ランチョンセミナー等に加え、あらたに英語を共通語とするセッションの創設を図ること等を企画している。ヤングフェロー賞の応募を広く呼び掛け、若手研究者の発表に一層の充実をはかる。

2.6 ILSI 共催シンポジウム（JOCS-ILSI Japan Joint Symposium 2003）

日本油化学会では、新設されるオレオライフサイエンス部会の事業のひとつとして ILSI Japan と共催し、「油脂で創る健康」をテーマとして、国内外から招聘する16名の演者によるシンポジウムおよび一般公募（ポスター）、協賛企業による製品の展示ブースの設置などを予定している。

実行委員長は島崎弘幸 オレオライフサイエンス部会セミナー担当幹事。会期は平成15年6月13日（金）-14日（土）、会場は昭和大学上條講堂。

2.7 JOCS/AOCS ジョイントシンポジウム（JS2004）

JOCS/AOCS ジョイントシンポジウム（JS2004）は、和田 俊実行委員長（東京水産大学）のもとに、2004年5月4-7日に開催されるAOCSの年会（シンシナティ）において共催されることが決定した。脂質と栄養・健康、バイオテクノロジー、脂質の酸化・抗酸化、リン脂質の4分野について、口頭発表、ポスター発表によるシンポジウムを行うことが計画されている。また、日本油化学会主催のパーティーの開催について検討している。